

ITI Scholar NEWS

vol.11 (2023, September)

ITI Section Japan



ITI スカラー通信第 11 号をお届けします

今回の通信では、2023 年 3 月より Basel 大学にて開始されました東京医科歯科大学大学院口腔再生再
建学分野ご出身の井上絢介先生からのレポートとなります。

留学先スイスでの、ライフワークバランスの様子など、国による仕事への取り組み方の相違を中心にご報
告いただきます。

井上 絢介先生

The University Center of Dental Medicine Basel UZB (Basel, Switzerland)

2023年3月よりスイス バーゼル大学に ITI scholar として留学しております東京医科歯科大学大学院インプラント・口腔再生医学分野（現 口腔再生再建学分野）出身の井上 絢介と申します。

今回2回目の投稿の機会を頂戴いたしまして ITI Section Japan の関係者各位の皆様方に深く御礼申し上げます。前回の投稿では、スイス バーゼル大学での Scholar としての Scholarship Year 前半の活動を中心に書かせていただきましたので、今回はバーゼルの夏の生活について少しでも皆様にご紹介できればと存じます。

夏にはスイスの Supervisor の先生方も医局の友人たちもバカンスを楽しんで気分転換を行うようです。Supervisor の話によるとスイスでは年間5週間の休暇をバカンスとして取得でき、さらに3週間は連続した休みとして取らないといけないルールがあるそうです。同じ研究プロジェクトをしている友人も5週間連続でタヒチに行き、しっかり日焼けして最近帰ってきました。医局内は半分以上の先生が不在という状態が続いています。

あとバーゼルではライン川に身を任せてただただ流されるというイベントが盛んです。かなり流れが急なのですが、老若男女が水着で気持ちよさそうに流されています。昼休憩にちょっと流されてくるという軽い感じで泳ぎに行きます。

私はというとバーゼル大学の Supervisor の自宅に招待していただき食事をいただいたり、バーベキューをしたりしています。お子さんのハンドボールの試合を家族で観戦したり、ドイツのモールに車で買い出しに一緒に出かけたりしています。また、ドイツのフライブルグに Supervisor から借りている自転車で行ってきました。80km ほどでしたが道も舗装されてなかったり、前日の大雨で道が封鎖されていたりとかかなり大変でしたが電車で行くよりも小さな村に寄りたり良い思い出になりました。

スイスでは仕事の ON と OFF がきっちりしており、診療が終わって夕方になるとクリニックはもちろん、私のデスクがある研究エリアにも誰もいません。仕事をきっちり終わらせて、そのあとは自分の時間であったり家族との時間を楽しむということをみんながしており、それが自然となっていることが実際に生活しているとよくわかります。逆に遅くまで仕事をしていると早く家族のいる家に帰りなさいと言われるます。

Scholarship Year が終わり日本に帰国したらバーゼルで学んだ経験を日本で活かせるように最大限努力し、スイス人の仕事に対するスタイルに倣って家族との時間を大切にできる生活を送りたいと考えております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



(留学先バーゼルの風景、ライン川をのぞむ)



(筆者近景：休日でのサイクリング)

ありがとうございました。

